日支共存之原理

法學士 衣斐 鈎吉 著

日支共存之原理

東京 大和民

大正八年三月廿六日印刷
大正八年三月廿九日發行

（日支共存之原理）奥附
定價八十錢

不許複製

著者兼發行者　東京府北豐島郡西巢鴨町字巢鴨二千三百六十四番地　衣斐鈔吉

印刷者　東京市神田區中猿樂町十七番地　渡邊市太郎

印刷所　東京市神田區中猿樂町十七番地　中外印刷株式會社

發行所　東京市神田區中猿樂町十七番地　中外印刷株式會社內　大和民族社

序

有形無形に亘り數年間世界の全局面を戰慄震撼せしめたる禍亂も漸く終息の緒に就き、今や將來の平和確保に關して列國識者の努力を煩はしつゝあり。國際聯盟の如きは其努力中の重要なるものにして、之か成否は兎に角、世界の大勢は實に各邦の融和接近を切要と認め居れり。然るに眼を東亞の一方に放てば却て此の大勢に逆行するの益甚しきものあるやを疑はしむるものあり。抑も日支親善は多年兩國々民間に高唱せらるる標語なるにも拘らず、或は屑々たる相互の感情に制せられ、或は辛辣なる策士の離間に乘ぜられ、此の標語を事實ならしむることの屢蹉跌するの嫌あるは

何そや。畢竟するに兩國民多數の理解か兩國の親善接近を切要とする所以の眞諦に觸れざるに職由す。友人衣斐鈔吉君深く東亞の將來を憂へ、汎く文化的地理的人種的並に經濟的各方面より日支の融合接近を切要とする由來を詳述し、以て兩國民の眞正なる理解を求めんとせり。處論必ずしも皆悉く余輩の首肯する處に非ずと雖現下の時局に對する好著述たるを失はす。敢て日支の識者に向ひ本書が吾人兩國民の親善と融和とを增進すること尠からざるべきを推稱せんと欲す。

大正八年三月

陸軍少將　宇垣一成

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

自序

亞爾泰山頭風雲幾度か去來して黃海の水「歷史の波」に驚くこと又幾度か。民衆四億先王の舊國に嗷喁して之が存亡は實に明日に在り。古聖先王既に忽焉として辭しぬ、濟民興國の事今誰に向つてか問はん。百萬の流血歐亞の野を染めて鬼哭天地に充つるは這般大戰の殘害なり。和を講じ武を偃せて永く億兆民生の福祉を圖るは固よりウ井ルソンの提唱を俟つて始めて知るべきに非ずと雖、輕佻なる日本の某博士輩が「人類獨立の宣言」に渇仰し、十四箇條提案の趣旨に隨喜せるに際し、米國上院の多數がウ井ルソンの主張に反對しつゝあるは何等の皮肉ぞや。國際聯盟は天國の創造者

に非ず。弱者の權利は依然として強者の意思に壓倒せられ、支那は現に小弱國の一員として其の主張は何等の權威をも認められざるに非ずや。講和會議を以て排日の演壇と思惟し、兩國の國交と兩國民の感情とを阻碍する如きは實に自ら自己の墳墓を穴掘るものに非ずして何ぞ。自國の鐵道を擧げて國際の管理に委ぬるは、是れ自國の國土國脈を擧げて國際の管理に委ぬるの前提なり。力足らず時不利にして亡國の悲運に陷れるもの余輩多く之を聞けり。士氣頽廢して不知不識の間社稷覆沒の末路を致せるもの亦必ずしも鮮からず。然れども自ら亡國の準備を爲すこと支那の如きは史上未だ曾て有らざる處なり。秦、漢、唐、宋、元、明、清。

千年の風雨大成殿の軒朽ちて中華の光瞬くこと久しと雖、遺經尚ほ纔に存ず。之を持して聖林の根蔕を培養するに於て舊邦の命は惟れ新なるを得ん乎。日支兩國山河相擁し國脈相通ず。失燕直受北風寒とかや。支那の存亡は同時に日本の存亡にして、日本の存亡は又實に支那の存亡を意味す。古道頽廢して千里の行路共に往くべきもの獨り日支の兩國有るのみ。禹湯文武を九泉の下に起すとも必ず和漢の提携を說かん。

西暦千九百十九年三月十日

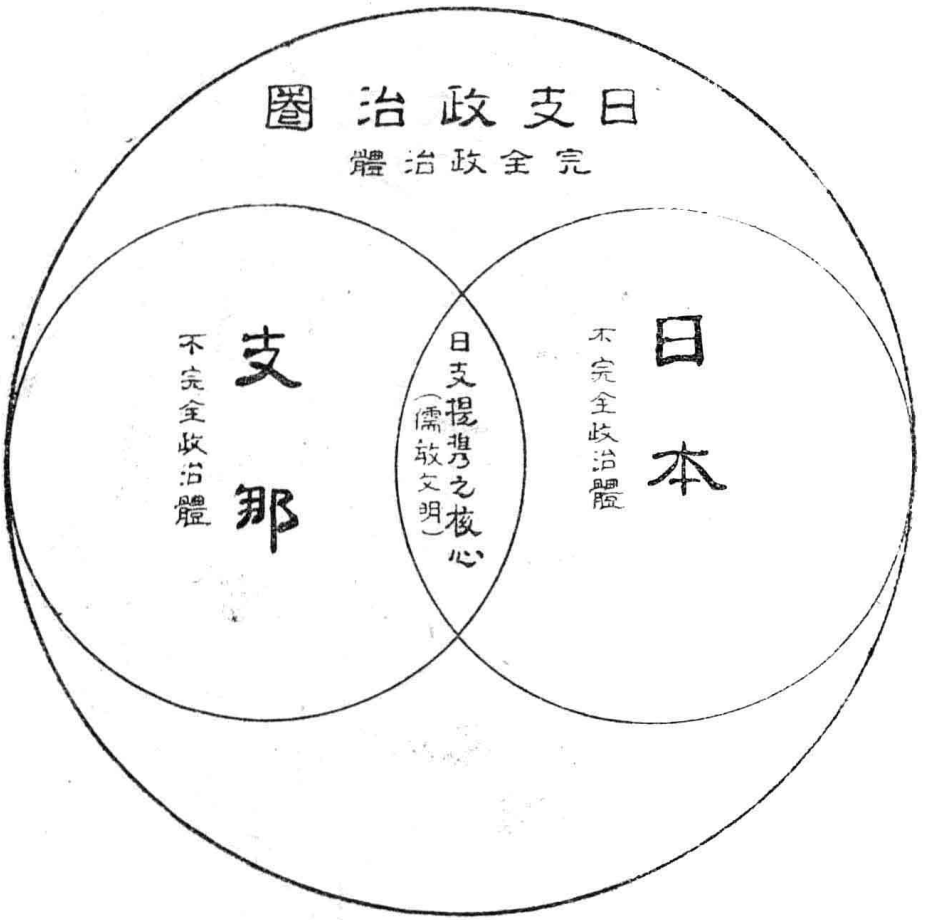
國際會議開催中東京北郊の假寓に於て

著者識

所說

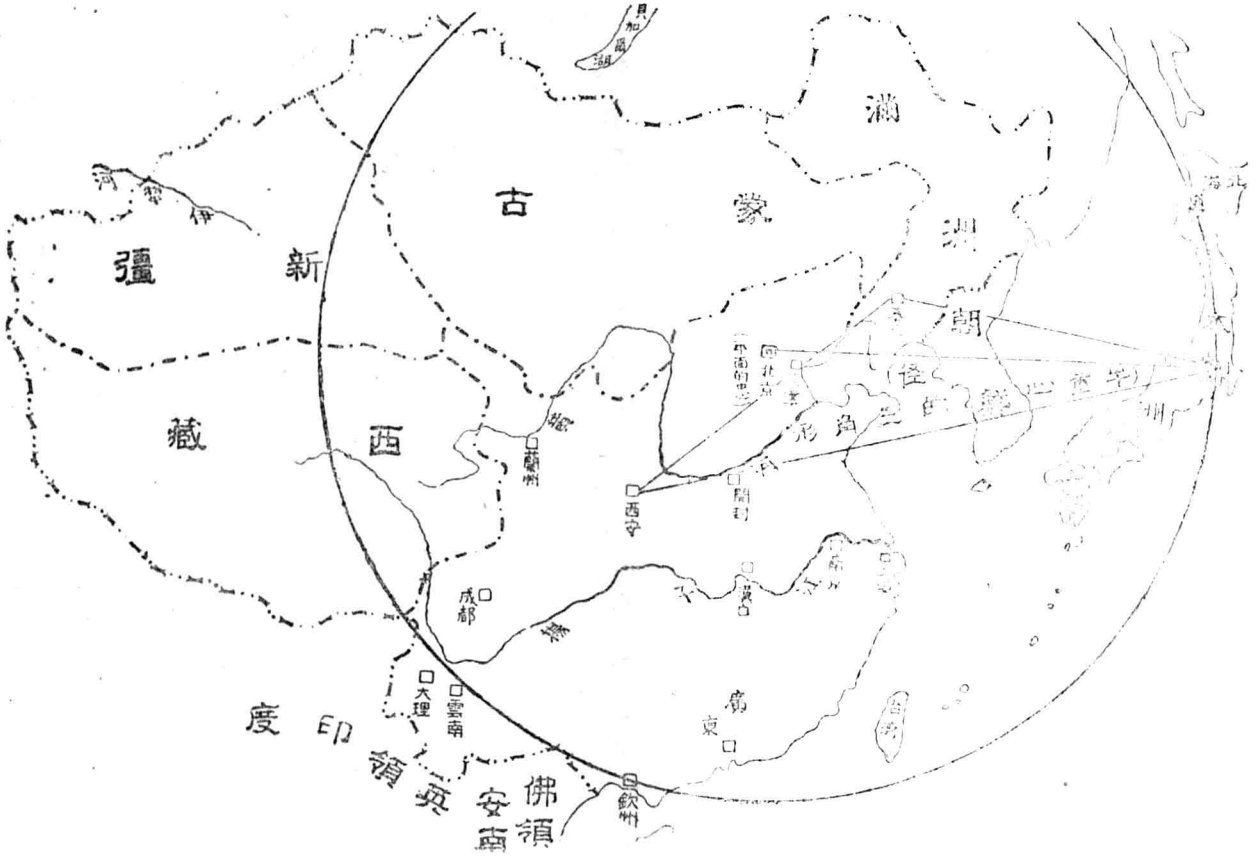
一、本書は講和會議就中國際聯盟に關する協議の進行に際し、日支兩國の國交狀態に憤慨する處あり著者年來の持論を披瀝せるものにして、從て前著「帝國國難論」及び「大和民族の使命」中の所說と多少重複する處有りと雖、文化的並に地理的關係より極東二大民族の提携を論斷せるは本論の骨子にして又其の特色とする所なり

二、本論中支那鐵道に關する所見は主として支那共和國交通部顧問アッシュ、シャリギョン氏の所論を參酌せり



日支提携圖解

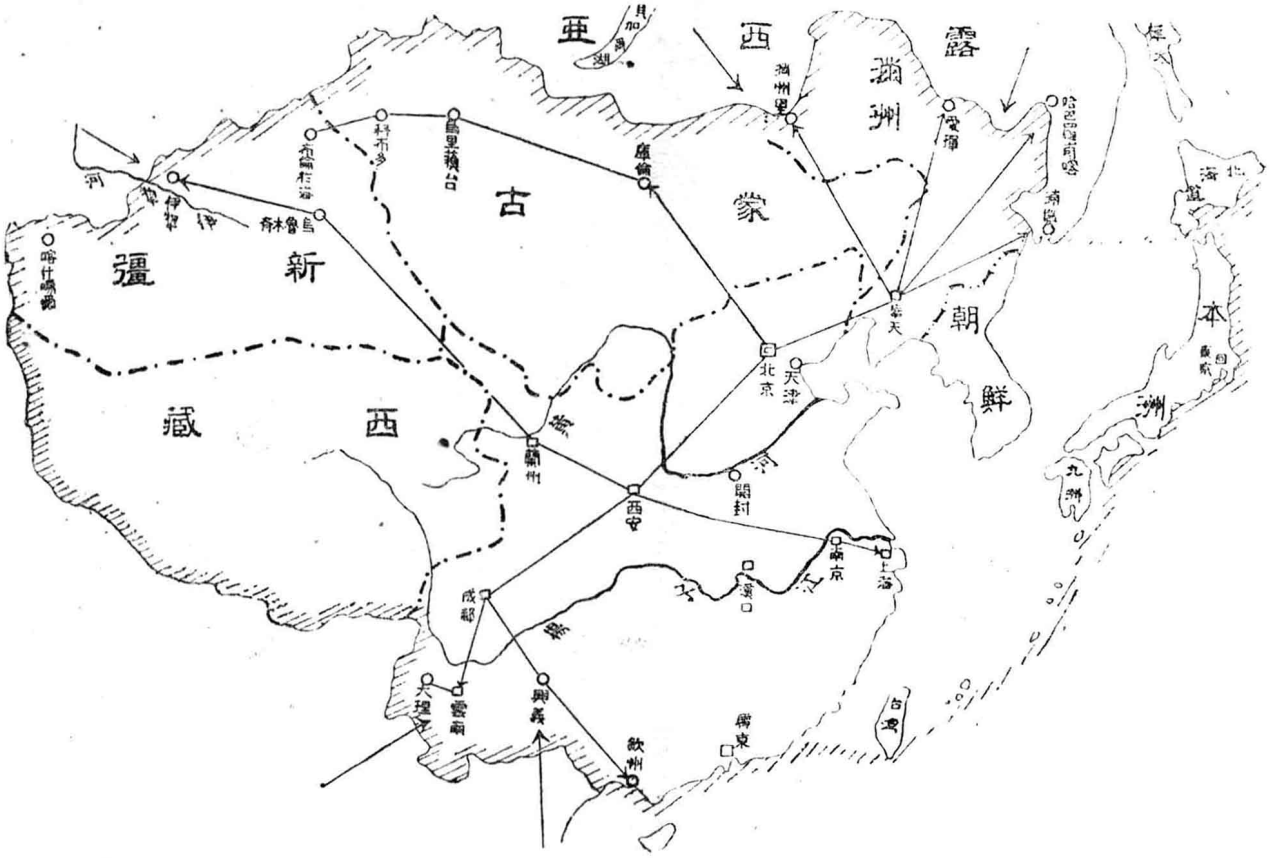
附圖之一



日支政治圈徵象圖

附圖之二

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com



日支政治圈之國防

附圖之三

日支共存の原理目次

附圖三葉

上編日支提携の核心

○黄河の文明……一
○漢種文明の特質……四
○漢種文明と四圍の蠻族……一〇
○漢種文明と原始的日本……一八
○漢文學に救はれたる日本……二五
○日本武士道の根蔕……三〇
○漢種文明の延長たる日本の物質文明……三四
○漢種文明の精華と日本武士道……三六

○日々に新なる古道……四五
○醇化されたる儒教……四八

中編日支提携の基準

○政治的生命と文化的使命……五七
○一縷の命脈……五九
○日支關係の推移……六三
○西力東漸の集中點……六八
○日本を補足するものは支那……七八
○日支政治圏圖解……八一
○同盟と聯邦……八三
一、支那に對する日本の補充力

○日支共同の防衛力……八九
○武力無き對外意思……九五
○自ら治め得ざる民……九七
二、日本に對する支那の補充力
○日本の質と支那の數……一〇二
○支那を離れたる日本の産業……一〇九

下編日支提携の事務

○友愛平等を基礎とする盟約……一一七
日支合議體の事務
甲、最高委員會
○國家合同か合同國家か……一二三

○日支盟約の根本政務……一二六
乙、外交及び國防
○日支關係は對内政策の延長也……一三〇
○日支共同防衛の單位……一三五
○日支の對外並に對内的重心……一三七
○日支共同の戰場と國防軍……一四四
○支那國境に對する壓迫……一四七
○陸上壓迫に對する鐵道政策……一五七
○海上防備……一六〇
丙、内政
○先づ至誠を披瀝せよ……一六三
○支那の災厄を除け……一六九

日支共存之原理

法學士　衣斐欽吉著

上編

日支提携の核心

黄河の文明

詩人は歌へり、「君見ずや黄河の水天上より來る」と。源を西藏の幽谷に發して東に流るゝこと三千哩、渭水を併せ洛河を呑み、滔々中原を貫いて黄海の波に入る。太古茫邈の代、黄帝其族を率ゐて此河の邊りに來り、河南の地より起りて先住民族と戰ひ、葷粥を北に逐ひ三苗を南に壓し、漢民族の國家は茲に其の基礎を開けり。當時彼等は既に指南車を作りて戰鬪に用ゐ、舟車を作りて通ぜざるを濟し、日月星辰の象を見て天文、曆數を作り、算數を作り律呂を生じ、

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com